

新潟 防災ジャーナル

安全立県宣言

＜第17号＞

(財)新潟県中越地震復興基金「震災の記憶」収集・保全事業の一環として発行されています。

発行 中越防災安全推進機構

〒940-0062

長岡市大手通2丁目2番地6

TEL・FAX 0258(36)8141

真人町は今

「地震で大きな被害を受けて世帯も減ってしまった」と源勝山の高台から中越地震当時の様子を語る丸山啓治さん。10月18日、小千谷市真人町



いい汗かいた

ルポ・真人町

手づくり、まっと秋の陣

山が色づき、待望の出産。集会所の真人町民会が、夜遅くまで続いた。7年目となった「まっと秋の陣」。地元地域おこし団体「まっと秋の陣」が主催する。山が色づき、待望の出産。集会所の真人町民会が、夜遅くまで続いた。7年目となった「まっと秋の陣」。地元地域おこし団体「まっと秋の陣」が主催する。

「まっと秋の陣」は、2004年10月23日の中越地震では、山あいの北部地区を含め真人町のほとんどの家が被災した。南側を接する十日町市方面との往来はできず、小千谷市中心部につながる道路は寸断された。小千谷方面からの情報や支援物資はしばらく届かず苦労した。



あの時……

真人町でも多くの住民が被災し避難所での共同生活を送った＝2004年10月27日、マットトレーニングセンター

里地一番のイベントに

「まっと秋の陣」は、2004年10月23日の中越地震では、山あいの北部地区を含め真人町のほとんどの家が被災した。南側を接する十日町市方面との往来はできず、小千谷市中心部につながる道路は寸断された。小千谷方面からの情報や支援物資はしばらく届かず苦労した。

2008年10月、新潟県中越地震など県内で度重なった災害で培った経験を活かす「防災グリーンツーリズム宣言」を行った。日ごろから農業体験などを楽しむグリーンツーリズムを通じて地域間交流を深め、いざ首領などでの大規模災害の際に、県内に自万人程度の被災者の受け入れを目指すという構想だ。中越地震からの復興を機に、特色あるグリーンツーリズムの輪が、各地で姿を見せ始めている。「道は直って、山も元通りになったけど、地域に元気が無くなってきた。地域の恵みを生かして、何とか元気になる源をつくりたい」と語ったのは、新潟県魚沼市旧堀之内町で自営業を営む下村淳さん。同地区は山古志から流れる幸川の河口部に位置する。百世帯ほどの集落で、地震の際には地すべり等の被害に加え、幸川上流の東竹沢河川閉塞による水害の二次災害の危険にさらされた地域だ。下村さんは地震後、同地区の有志で地域間交流を通じた地域づくりを進める「電光体験受け入れチーム」のメンバーを務めている。現在感じている課題は、「まだ

新装なりあふれる歓声

「牛の角突きの会場、んな立派な施設を造った。牛の角突きの会場、んな立派な施設を造った。牛の角突きの会場、んな立派な施設を造った。牛の角突きの会場、んな立派な施設を造った。」

山古志

闘牛場



「まっと秋の陣」は、2004年10月23日の中越地震では、山あいの北部地区を含め真人町のほとんどの家が被災した。南側を接する十日町市方面との往来はできず、小千谷市中心部につながる道路は寸断された。小千谷方面からの情報や支援物資はしばらく届かず苦労した。



ムラに都会の学生たちがやってきた。元気、活気も運んでくる＝魚沼市電光

復興通信

「まっと秋の陣」は、2004年10月23日の中越地震では、山あいの北部地区を含め真人町のほとんどの家が被災した。南側を接する十日町市方面との往来はできず、小千谷市中心部につながる道路は寸断された。小千谷方面からの情報や支援物資はしばらく届かず苦労した。